

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100699		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教詩行団		
事業所名	グループホーム シオンの園 かつろ樹		
所在地	佐賀市大和町大字久留間3865-1		
自己評価作成日	令和 5年 10月 30日	評価結果市町村受理日	令和6年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 5年 11月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かつろ樹事業所では個人の残存能力に合わせ、自分らしく、ご自宅のような暮らしを目指し、お一人にとりにあった生活をしていただき、また、ご家族様との交流も継続し、現在、まだ施設内のイベントにご家族様が参加できない現状を踏まえ、タブレットを活用し、普段の様子や写真などもお送りし、笑顔で過ごしていただけるようすに努めています。今後も、尊厳を守り、安全、安心に生活支援に努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

みかん畑が広がり、自然豊かなところにあり、母体法人が運営する他の施設に併設している。SNSを活用し、写真や動画を配信するなど、遠方に住む家族でも、入居者の暮らしぶりを共有することができる。入居者の意向を確認しながら、季節に応じた食事の提供やドライブなどを企画し、実施されている。法人が中心となり、eラーニング等を活用した研修が行われ、職員が研修を受けやすい環境が整えられている。職員間のコミュニケーションもとれており、互いに支え合いながら、処遇モットーを念頭において、日々のケアにあたっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の部会にて経営理念、処遇モットの唱和を行い、パソコン(タブレット)を活用し理念の理解を深め、実現に向けて取り組んでいる。	毎月グループホーム内の会議で経営理念、処遇モットの唱和を行うほかに、パソコンで視聴できる動画を発信し、いつでも職員が理念やモットーについての理解を深めることができる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナウイルスの感染予防対策に一環として敬老会は中止するも、秋祭りは開催し地域の方との交流の場となった。	今年度より、秋祭りを再開し、コロナ禍で面会制限されていた地域住民と入居者の交流をすることができた。ボランティアや実習生の受入の再開を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在もコロナウイルス感染予防のため、地域公民館の「みかん倶楽部」などには参加できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、2か月に一回にお開催を行っている。利用者の様子や近況を報告し、参加されたご加速や民生委員の意見を参考にサービス向上に努めている。	今年度より、2ヶ月に1回、ホームとは別の建物を活用し、会議を開催している。家族へは参加の呼びかけをし、意見や要望等は電話や面会時に確認している。会議開催後は、ホームを訪れる方が閲覧できるように、会議録を玄関に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を今年度より再開し、市町村担当者も参加され、意見交流を行うことでサービス向上に努めている。	市町担当者へは、必要に応じて連絡を取っている。ホームの空き状況の問い合わせがあったときには、管理者以外の職員でも対応できるような体制をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い、2か月に一回、部会にて職員一同で勉強や検討を行い、身体拘束ういしないケアに取り組んでいる。	運営推進会議の中で委員会を実施し、法人全体の研修会に参加したり、2か月に1回チェックリストを活用しケアを振り返り、身体拘束に頼らないケアの取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討を2か月に1回、部会で話し合い、シオンの園での園内研修にも参加し意識付けや振り返りを行い業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内研修棟で理解を深め知識向上に努め、部会にて職員とも意見を交わし活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、必ず説明を行い、不明点なども確認し、ご理解、ご納得いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度より運営推進会議の再開し、また、タブレットを活用し意見交換等を行い、運営に反映できるように努めている。	運営推進会議の場や、面会時に入居者本人の状況を伝えながら、意見や要望の把握に努めている。またSNSを活用し、随時、意見や相談などを受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部会にて家コンや提案を反映できるよう努めている。	勤務年数が長い職員が多く、意見や提案を言いやすい関係が築けている。ホーム内で検討できるものは会議で共有している。また、法人全体での対応が必要な内容は、法人に報告して運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課や福利厚生にも力を入れ、ハラスメント研修・ストレスチェックを行い、働きやすい職場環境に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に基づき、法人内での研修に参加し知識・技術向上に取り組んでいる。外部研修に関しては参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	業務都合にて、今年度は参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者によりコミュニケーションを取りながら、要望や不安なことを傾聴することで安心や信頼感関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や要望・不安なことを伺い、傾聴しサービスに反映し、ご納得した関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や要望を担当者が傾聴、サービス支援に反映できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごすうえで一方的にならない様に努め、状況や状態を確認し他者様や職員と共同で取り組み信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンス・運営推進会議を通じ信頼関係を築き、タブレットも活用し連絡を密に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在もコロナウイルス感染予防により制限はあるものの面会や外出支援に努めている。	手紙などが届いたときには、本人に渡している。また、感染予防対策を行いながら、家族以外の面会も受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や特徴などを把握し職員同士でも共有を行い、過ごされる席順や利用者同士の関係も配慮しトラブルなく楽しく過ごしていただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の中で取り組みを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過ごされる中で思いや希望・意向を傾聴する環境に配慮し、職員全体で把握、部会などで話し合い・検討に努めている。	日々の生活の中やレクリエーションなどの活動を通じて、意向や要望を聞き出せるように努めている。また、言葉で表現することが難しい入居者は仕草や行動で把握し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の活用、普段の中での話を傾聴し把握をするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の部会などで利用者の現状・状態を話し合い職員全員で把握していくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部会や半年に一度はご家族同席で話し合い、現状に即した介護計画を提案、作成している。また、3か月枚にもモニタリングを実施している。	本人や家族に要望を聞いたり、また看護師に状態を確認し、職員間で意見を出しあって、プランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や生活状態を個別ケース記録に記載。部会で職員全員で情報を共有し議事録に残し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して部会や家族様と話し合い柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度はボランティア・地域住民のご協力により秋祭りの開催ができ、参加支援ができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が協力医に8名様変更され、定期回診時、状態報告、指示を伺い対応を行っている。	主治医については、本人・家族の希望を確認し、定期受診の対応が難しい場合は、往診可能な医療機関を紹介している。定期的に通院している入居者は、家族と連携し、受診状況の把握をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クローバー訪問看護ステーションと契約し週1回の訪問時、状態報告、確認され、訪問以外でも体調不良時には連絡、対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院加療中、定期的に状態を伺い、担当医、看護師、ご家族様と情報共を行っており、早期退院に向けても話しあうように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の意見等を参考に家族様と話し合い、方向性を決め情報共有を行いながら、医療と連携し支援していく体制作りにも努めている。	主治医の指示の下、本人・家族の意向を確認し、関係機関と終末期に向けた方針を共有している。緊急時には、訪問看護へ連絡することにより、職員の精神的な負担の軽減ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体研修に参加し向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の消防訓練計画をたて昼夜想定での訓練も実施しており、火災・地震・支援災害等のマニュアルも作成している。	消防訓練以外にも、他の自然災害への訓練計画も立てており、実施されている。備蓄やカセットコンロなどの準備をし、定期的に点検管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉掛けや声量を心掛け、勉強会も行い取り組んでいる。	入居者本位の支援をおこえるよう、言葉遣いの勉強会を行い、意識付けをしている。排泄の声かけ等は、周囲に配慮して、個別に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中などで希望を傾聴、確認・準備し、自発的行動を尊重した対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の仕草や行動、希望に添った対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意思や希望に添うよう柔軟な対応を心掛け、定期的な理髪サービスも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食事の注おぎ分け、食後の食器拭きなど家事活動に取り組んでいただいている。	昼・夜は外注であるが、入居者の希望に応じて、外注をキャンセルし、旬の食材を使った食事を提供している。法人本部の管理栄養士が、食事の写真や残量のチェックをし、管理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼・夕と外注(セイブキッチン)に依頼。提供時には個々に合わせて食事形態・量を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清拭は行っており、義歯の利用者は毎週1回洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人ひとりの排泄状況を把握、案内し、その時々に応じた支援に努めている。	排泄パターンを把握し、常時オムツ使用の入居者でも、一日1回はトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時、お野菜や咀嚼ゆっくりして頂けるように言葉掛けを行い、10時の水分提供時には乳製品や水分も多めに提供し、必ず、午前・午後のレクリエーションでは体操に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後、入浴を行い、利用者の状態に応じて支援を心がけている。	週2～3回、音楽をかけたり、入浴剤を使用し、ゆっくり入浴を楽しむことができるよう支援している。身体状況に応じて、機械浴対応も可能である。着替えは、入居者と職員で一緒に準備を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じた対応を心がけ、その時々では広間で寛がれ、居室での静養をお勧めしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書は職員が閲覧ができ変更時には職員連絡ノートに記載、ご家族様や主治医にも変化などを報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割を持って頂き職員と共に行い自主性を尊重し支援を怠らないうる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前より、コロナウイルス感染対策も緩和され事業所でもドライブを再開し、家族様より申し出があった際は対応を行っている。	コロナ禍でできなかった外出については、入居者の意向を聞きながら、季節の花々の鑑賞等のドライブを再開している。個別に入居者の外出希望があれば、家族にも協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人で保管をされている方はおられないが、ご家族様よりお預かり金を鍵付きの場所で保管し使えるように対応に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレットにてテレビ電話を活用、掛かってきたさい対応をおこい、手紙等は返事ができるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごしていただけるように季節・天候が良い日は外を眺められるよう配慮し室内温度・湿度の調整を行っている。	温度湿度計を用いて、管理を行っている。季節の花々を入居者に活けてもらい、季節を感じてもらえるよう工夫をしている。呼び出し音の音量も昼夜調整するなど、音への配慮も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間内ソファーやテーブル席を利用し、居室に戻られ思い思いの場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より、馴染みの物や好みの物を持ち込んでいただき心地よい環境にし過ごしていただく。	馴染みのものは持ち込むことができ、職員と一緒に入居者や家族が居室づくりを行っている。居室に入る時は、入居者へ声かけをし、プライベート空間への配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を生かし自立した生活が送れるように努めている。		